

# クルーズの需要動向に関する分析

(研究期間：平成 27 年度～)

港湾研究部 港湾システム研究室

主任研究官 佐々木 友子 (室長 (博士(工学))) 赤倉 康寛 研究官 杉田 徹



(キーワード) クルーズ、寄港実績、外国人旅客数

3.

生産性革命 (i-Construction) の推進、賢く使う

## 1. はじめに

近年のクルーズ船の大型化や、手軽に楽しめるクルーズの普及などもあり、我が国へのクルーズ船寄港は急増している。クルーズ船の寄港による地域への経済効果も期待されるなか、クルーズ船寄港への対応が急務であり、クルーズの需要動向について把握することが求められている。

## 2. 我が国のクルーズ需要動向に関する分析

国土交通省港湾局では、港湾管理者からの聞き取りにより収集したクルーズ船の寄港実績並びに法務省入国管理局集計の我が国へクルーズ船で入国した外国人入国者数を用いて、訪日クルーズ旅客数(乗員を除く)とクルーズ船の寄港回数を発表している<sup>1)</sup>。今回は2015、2016、2017年の当該発表に使用されたデータを用いて分析を行った結果を紹介する。なお当外国人入国者数データでは外国人旅客の国籍は把握できず、当寄港実績データもクルーズの起点国・地域が不明なデータが多く含まれているため、LLI船舶動静データやクルーズ船社ホームページ等を参照して起点国・地域の推定を行った上で、以下の分析を実施した。

図-1は海外を起点とするクルーズの起点国・地域別外国人旅客数である。2015、2016、2017年ともに中国を起点とするクルーズで入国した外国人が最も多く、次いで台湾、香港と、この3ヶ国・地域で大半を占めている。なお国・地域名はクルーズの起点国・地域を示したものであり、旅客の国籍ではないことに注意が必要である。

図-2は海外を起点とするクルーズの平均定員(日本への入国回数により重みづけしたもの)、入国一回あたりの外国人旅客数の平均、外国人旅客消費率(外国人旅客数÷定員)の平均を示したものである。

平均定員は経年的に増加しており、それに伴い、入国1回あたりの外国人旅客数も増加傾向にある。また外国人旅客の平均消費率は8割前後であり、高い消費率で日本へ入国していることがわかる。



図-1 起点国・地域別外国人旅客数 (海外起点クルーズ)



注) 定員が不明なクルーズは除外

図-2 平均定員、平均入国1回あたり外国人旅客数、平均外国人旅客消費率 (海外起点クルーズ)

## 3. おわりに

本稿では我が国へ寄港するクルーズの需要動向について簡単に紹介したが、より詳細な分析や、クルーズ船の寄港による経済効果の算定を引き続き進めているところであり、分析結果をとりまとめ次第公表する予定である。

1) 国土交通省港湾局(2018年1月16日):2017年の訪日クルーズ旅客数とクルーズ船の寄港回数(速報値), [http://www.mlit.go.jp/report/press/port04\\_hh\\_000189.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/port04_hh_000189.html)